

第6次

朝酌地区地域福祉活動計画

令和6年度～10年度

安全で安心して暮らせる
まちづくり

あさくみマスコットキャラクター

あさまる

あさまるも
地域をみまもるよ。



本名
朝酌川まもる

朝酌地区社会福祉協議会

第6次朝酌地区地域福祉活動計画策定にあたり

はじめに

令和5年5月に、「第6次朝酌地区地域福祉活動計画」を策定するため「第6次朝酌地区地域福祉活動策定委員会」を立ち上げて、検討・会議を行いました。

「第5次福祉活動計画」を振り返ってみると、新型コロナウイルス禍により、なごやか寄り合い事業などが集う場での開催が困難となりました。

第6次福祉活動計画の策定にあたっては、全世帯及びこれからの朝酌を担う小学生、中学生を対象にアンケートを実施しました。

また、小学生を対象にして「子ども福祉座談会」を開催し、朝酌地域の好きな場所、嫌いな場所、その場所はなぜそのように感じるか意見を聞きました。

アンケートでは、多世帯家族が多い一方、新たに生活を始める子育て世帯が増えていました。

自分や家族の健康や介護などに、不安を抱えていたり困っていたりする傾向があり、また、暮らしやすい朝酌にするためには、見守りや住民同士の声かけ、助け合いなど互助に対する意識が高かったです。

小学生・中学生からは、みんなが誰でもあいさつする朝酌、明るい笑顔がいっぱいの朝酌、自然豊かで安心安全な朝酌、誰もが楽しく遊べる居場所などを作ったら良いなどの意見がありました。

策定委員会では、皆様のご意見やアンケート調査結果を基にして検討を重ね、「第6次朝酌地区地域福祉活動計画」を策定しました。

基本理念は、「安全で安心して暮らせるまちづくり」とし、朝酌地域に住み慣れた皆様、朝酌地域に新居を構えられた皆様が、安心して自分らしく暮らすことができる環境づくりを目指します。

今後、この計画に基づいて活動を行いますが、地域住民の皆様の一層のご理解、ご協力をお願いします。また、活動にも参画していただきますようお願いします。

今回の福祉活動計画策定にあたり、分析、検討をしていただきました策定委員の皆様ほか、アンケート調査にご協力いただきました、地域住民、小学生、中学生の皆様に感謝申し上げます。

令和6年3月

朝酌地区社会福祉協議会

会長 古藤和則

第6計画策定作業経過

1. 策定委員会の設置及び開催

朝酌地区社会福祉協議会は、第6次計画を策定するため、「第6次朝酌地区地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、委員会を開催。地域住民のアンケート調査等をもとに、地域課題の整理・分析をし、活動計画を作成した。

NO	開催日	内 容
1	5月24日	策定委員会の結成／第6次計画策定の手引きの説明
2	6月22日	第5次計画の振り返り／今後の進め方・スケジュール（案）
3	7月20日	実態調査の実施方法の検討
4	8月23日	アンケートの内容・配付・回収方法の検討
5	9月 4日	アンケート（子ども、大人）内容の検討
6	9月22日	アンケート（子ども、大人）内容の検討
7	11月14日	子どものアンケート集計結果報告
8	12月 8日	アンケート（大人）紙回収分の入力作業・集計
9	12月14日	アンケート（大人）紙回収分の入力作業・集計
※	12月19日	アンケート（大人）集計結果分析
※	12月27日	課題整理／活動計画（案）…スローガン・目標・重点方針
10	1月15日	大人のアンケート集計結果報告／課題整理・分析 第6次活動計画（案）検討
11	1月23日	第6次活動計画（案）検討
12	2月 8日	第6次活動計画（案）検討
13	2月13日	第6次活動計画（案）作成
14	2月28日	第6次活動計画（案）作成
※	3月 6日	第6次活動計画（案）作成
15	3月13日	朝酌地区社会福祉協議会理事会にて説明し、計画の承認 朝酌地区町内会・自治会へアンケート協力のお礼と計画の説明

※コアメンバー会議

2. 「あさくみ福祉アンケート」（2種類）調査の実施

○小学生・中学生版：朝酌小学校4年生～6年生、松江市立第2中学校生徒（朝酌在住）

○大人版：朝酌地域住民

対 象	時 期	内 容
小学生 中学生	9月～10月	学校を通じて、児童・生徒に配付、記入依頼。 小学生：紙アンケート回答を回収し入力作業・集計。 中学生：QRコードより回答
大 人	10月～12月上旬	町内会・自治会を通じて、アンケート用紙を各世帯2枚ずつ配付し、紙回答の回収。転入者等は民生児童委員が配付。 (一部QRコードより回答あり)
	12月上旬～中旬	紙アンケート回答の入力作業、集計。

3. 「子ども福祉座談会」の開催

朝酌小学校児童29名参加で、9月23日に「子ども福祉座談会」を開催した。

4. その他

第6次計画書を朝酌地区社会福祉協議会総会で説明し配布する。

地域住民に全戸配布し周知する。

互いに認め合い、共に生きるまちづくり。

現状（アンケート結果）と課題

すべての人が
平等に想う
福祉活動体制づくり

月1回の福祉関係者連絡会を開催し、地域情報や地域課題を協議している。定期的に顔を合わせることで、日頃から相談しやすく活動しやすい体制づくりをしている。

朝酌地区では多世代家族が多い一方、新たに生活を始める子育て世代が増加している。地域とのつながりは希薄化し、不安を抱えやすい。地区の子育て情報誌の配布や、わんぱくくらぶ等のサロンを通して、保護者同士のつながりや保健師との相談を行っている。

見守り活動の推進

民生児童委員・福祉推進員はそれぞれの活動を行う中で、単独で問題解決を行うことは難しい。地域住民の課題を解決するためには互いに共有を図り、チームとして問題解決を図る必要がある。そのため、民生児童委員・福祉推進員の連携強化を目的に合同研修会を実施し、情報交換および共有を図っている。

コロナ禍により、福祉推進員はなごやか寄り合い事業等の集う場の開催から個別訪問活動に切り替え、見守り活動を行う意識づけはできている。毎年3回の研修会を実施し、活動の充実を図っている。また、朝酌の福祉推進員は1～2年ごとの任期となることが多い。

居場所づくりの推進

災害時の支援・対応について地域住民が具体的にどのように動く必要があるのかわからない。要配慮者支援組織（見守り隊）の設置地区は岩崎・西尾・太陽団地の3地区のみにとどまり、第5次計画から組織が増えていない。

自分や家族の健康・介護に対して困っている・不安に思っている人は多い。それぞれの任意団体は地域住民のために活動を行っているが、参加者が少なく、認知されていない。

なごやか寄り合い事業において、コロナ禍では集っての開催が困難だった。集まっての開催を再開することは福祉推進員にとって負担となった。

任意団体には乳幼児・児童・高齢者等を対象とした団体がある。様々な困りごとを持つ当事者・家族を対象とした任意団体がなく、交流できる居場所が限られている。

充実
ボランティア活動の

『あさくみてごの会』の認知度が低く、十分に知られていない。草刈りの他にも買い物支援等のニーズがある。地域住民にはボランティアをしても良いと思う方が多いが、実際の活動にはつながっていない。

健康づくりの推進

健康づくりのために、運動・食事・睡眠への関心が高い。さらに、人との交流や社会参加を意識している。人との交流も含め、心の健康づくりにも取り組んでいく必要がある。健診の受診率が低く、がん検診への関心も低い。

健康推進隊の活動について地域住民の認知度が低い。健康推進隊では健康講話やウォーキング等を開催している。食生活改善推進員は子どもへの食育やイベント等での食の啓発等を行っている。

一人ひとりが健康で活躍できるまちづくり

目 標

福祉関係者の連携を強化する。

子どもから高齢者まで地域全体で助け合い、
支え合いの意識づくりを行う。

子育て世代が地域の中で孤立しないように、
子育て支援の充実を図る。

民生児童委員・福祉推進員が互いに連携を図り、
社会福祉協議会・地域包括支援センター・公民館等とも協ししながら、地域住民の課題解決に
対してチームで対応できる環境を整える。

福祉推進員としての役割や合理的配慮、見守る
意識を定着し、見守り活動を強化する。

要配慮者支援組織や自主防災隊など、自治会も
しくは地域ごとに、民生児童委員や福祉推進員
を含めた、情報共有や体制づくりを行う。

それぞれの任意団体が地域住民にとって大切な
居場所ということを理解し、周知を図る。それ
ぞれのニーズに合った任意団体や地域の居場所
へつながることができる。

なごやか寄り合い事業において、福祉推進員の
負担軽減、再開に向けての運営支援・サポート
の充実を図る。

様々な困りごとがある当事者や家族からニーズ
把握を行う。必要に応じて新たな居場所をつくる。

ボランティア活動の普及を図る。

ボランティア活動に参加しやすい環境をつくる。

子どもから高齢者まで健康について関心を持っ
てもらうため、健康推進隊を中心に健康づくり
について啓発し交流する機会をつくる。

健康推進隊の活動において、内容の充実を図り、
地域住民の参加を促す。また、健康推進隊の周
知を図り、スタッフの増員を図る。

具体的な取り組み

定期的な福祉関係者連絡会の開催

あいさつ運動の推進

合理的配慮^{注1}をテーマとした研修会の開催

子育て情報誌の作成・配布、相談窓口の周知

わんぱくくらぶ・わいわいサロンの継続実施、
内容の充実

定期的な合同研修会の実施

定期的な研修会の実施

なごやか寄り合い事業と個別訪問活動の継続実施

災害時に備えた情報共有や連携方法の検討

広報を用いた地域住民への周知

なごやか寄り合いの再開に向けての研修会の実施

福祉関係者連絡会での情報交換、ニーズ把握、
新たな居場所の検討

広報等を用いたボランティア活動の周知

ボランティア人材のニーズ把握

文化祭での健康チェックなど健康づくり啓発活
動や小学校と連携した健診・がん検診の啓発活
動の継続実施

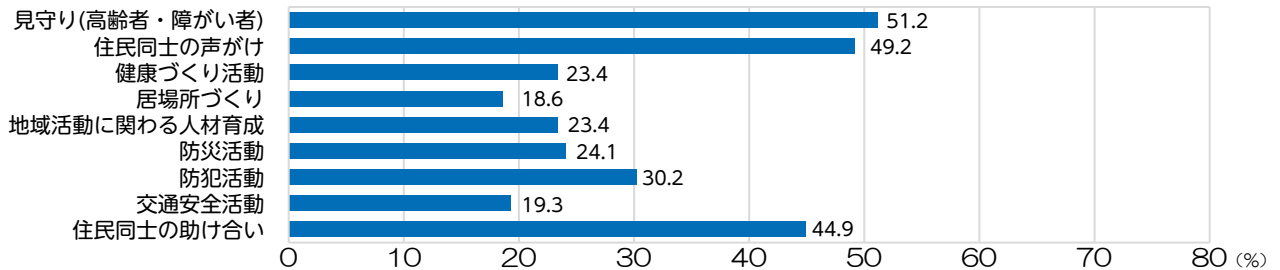
健康講話やウォーキング等への参加促進、およ
び内容の充実、地域住民へ健康推進隊の周知

注1) 合理的配慮とは障がいの有無やできるできないに関わらず、互いにできる配慮をする。

アンケート結果 一部抜粋

【大人】 回答数：457人 回収率：42%

●暮らしやすい朝酌にするために、どんな事に取り組むと良いですか？

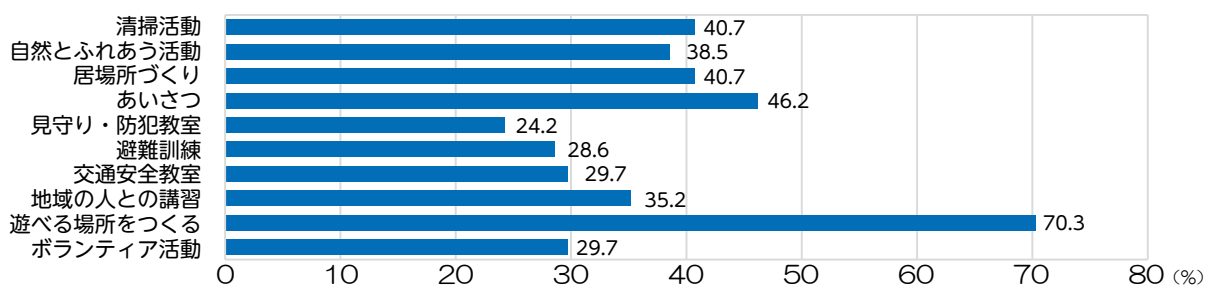


●朝酌地域でみんなが安心して暮せるまちにするために、どのような福祉活動をすればよいか、お考えになっていることを自由にお書きください。

- ・買い物の手助けを、地域で活動や方法を考えてもらいたい。皆、車がある人ばかりでは無いので。
- ・市営バスは本数が少ない。東出雲方面へのバスやコミュニティバスがあると良い。タクシー代は高い。
- ・市バスの回し場から女子高方面の街灯をもっと増やしてほしい。
- ・寄り合い場所の設置、近所同士の助け合い、独居の方の支援。
- ・コミュニケーションができる場所を作る。(気を使わず、さらっと行けて話しやすい場所)
- ・朝酌にしかない活動を考えて、気軽に立ち寄れるサロンのような場所があればよいと思う。
- ・若い年代が無理なく参加できる仕組みづくり。各年代層との交流推進、育成事業の活動。
- ・新しい居住者が増えつつある。新しく住まれる方にも福祉活動を推進していく。
- ・せっかく朝酌に新居を構えられるので、町内活動も同様に、一緒にやれるように工夫する必要があると思う。

【小学生・中学生】 回答数：91人 回収率：84%

●暮らしやすいあさくみ地域にするためには、どんなことをすると良いと思いますか？



●今後、どのようなあさくみをつくったらよいと思いますか？

- ・自然にあいさつできる。安心安全に暮らせて、あいさつ・笑顔があふれる町。
- ・あいさつを大きな声でいえる地域、元気のいい町、過ごしやすい朝酌、暮らしやすい朝酌。
- ・落ち着く場所、自然なところ、相談するところ。
- ・みんなが誰でもあいさつする朝酌、子どもも大人も安心して暮らせる地域。
- ・もっと子どもでも遊んだり、楽しめる場所を増やしてほしい。
- ・皆が協力し合ってとても楽しい朝酌をつくったらいいと思う。
- ・もっと文化祭を大きくする。地域の人と仲良く。みんながふれあえる所をつくる。
- ・ボランティア活動をやってなかったら、やったほうがいい。

第6次朝酌地区地域福祉活動計画策定委員名簿

(1) 策定委員

委員長	古藤和則	朝酌地区社会福祉協議会 会長
事務局長	池田太持	朝酌公民館 館長
委員	深貝恭悦	朝酌地区民生児童委員協議会 会長
//	上野克次	朝酌寿会連合会 会長
//	野津収三	朝酌健康推進隊 隊長
//	福良智洋	朝酌地区福祉推進員会 代表
//	米原房江	朝酌地区主任児童委員
事務局	奥村ゆかり	朝酌公民館 嘱託
オブザーバー	満田寛子	松江市社会福祉協議会 地域福祉課 朝酌地区担当コミュニティソーシャルワーカー
	杉原世奈	松江市社会福祉協議会 地域包括ケア推進課 松東地域包括支援センター 保健師
	川島遥華	松江市健康福祉部 健康推進課 保健師

(2) 理事

理事	野津照雄	朝酌公民館運営協議会 会長
//	原成美	朝酌地区町内会・自治会連合会 会長
//	古藤弘巳	朝酌地域まちづくり推進協議会 会長
//	神門眞澄	朝酌地域人権教育推進協議会 会長
//	森江和吉	市民憲章推進朝酌地区協議会
//	吉岡和弘	朝酌体育協会 会長
//	福原克巳	朝酌小学校 校長・朝酌幼稚園 園長
//	羽室利恵	朝酌地区主任児童委員

